

## 令和4年度 第3回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

1 日 時 令和4年（2022年）11月7日（月）9時30分～11時30分

2 場 所 白馬村役場 201・202 会議室

3 出席者 委員 13名（欠席：富原玲奈委員）  
この他、長野県教育委員会より2名  
（高校教育課主幹指導主事 山岸 明 氏）  
（ 同 主任指導主事 有坂清明 氏）  
白馬村、小谷村関係者2名  
白馬山麓事務組合白馬高校支援係2名  
白馬高等学校魅力化コーディネーター  
白馬高等学校教職員3名



### 4 次 第

#### (1) 開会の言葉（井出教頭）

#### (2) 長野県教育委員会挨拶（山岸高校教育課主幹指導主事）

○先日白馬高校70周年記念行事が開催された。新たに80年、90年、100年とますます発展できるような活発に議論して頂きたい。

#### (3) 学校長挨拶（関校長）

○70周年記念式典を無事終えることができた。運営協議会委員の皆さま方に出席いただき感謝申し上げます。白馬、小谷地域に白馬高校が末永く存続できるよう皆さまのご協力を引き続きお願いしたい。

○2年生主体の新たな生徒会が発足し、女子生徒会長と執行部の4名が校長室を訪ね抱負を述べた。その内容の一部を紹介すると、一つは「これまでボランティア活動は、大人が紹介したものに参加していたが、これからは自分たちが積極的に探して参加していきたい。」というもの。もう一つは、「生徒が主体になって、生徒同士、あるいは先生たちとしっかりと対話をしながら、自分たちが過ごしやすい学校を自分たちの手で作りたい。」というものであり、大変嬉しい思いである。それに応えるために、本協議会でしっかりと考えを出し合ってお互いに対応をお願いしたい。

○先ごろ行われた全日本スキージャンプの大会で、昨年度卒業した宮嶋林湖さんが5位に入賞し、ワールドカップの代表に選ばれた。卒業生の活躍を励みにして学校を盛り上げて行きたい。

#### (4) 審議事項

##### <井出教頭>

○これより会議に入る。白戸会長に議長をお願いする。

##### <白戸会長>

○校長先生の話の伺い、やはり子どもたちが主役だと思った。子どもたちのために有意義な会議としたい。

○前回会議では、生徒募集活動を中心に学校の魅力化に向けて、すぐにやらなければならないこと、このあとの2年間でやるべきこと、今後時間をかけて検討していくことについてグループに分かれて意見交換を行い、各グループで出された意見を全体で共有した。本日は、その後行った活動について報告していただき、今後の運営協議会としての取り組みについてさらに検討を重ねたい。

#### ①現状報告

##### <白戸会長>

○初めに、学校から報告をお願いする。

##### <関校長>

○生徒募集活動については、例年秋に2回設定している学校説明会が今年は2回とも実施でき、合わせて15名の生徒が参加した。アンケート結果を見ると、「白馬高校に入学させたいと思うか」では

13人中10人が「思う」「どちらかというと思う」と回答している。

- 授業公開は中学生13名が参加した。アンケート結果を見ると、授業については比較的肯定的な受け止め方をしている。少人数なので先生と生徒がしっかり対応しながら、生徒同士も意見を交換しながらの授業が展開されている。
- 県内の中学校に向けた通学区別入学者選抜説明会に参加した。本校の魅力を伝えるとともに、前期選抜における普通科の募集枠を40%から50%に変更したことの周知に努めた。
- 小谷中学校に協力いただいて地元中学校保護者対象の説明会を開催することができた。小谷中学校では30名の参加があり、22名からアンケートの回答をいただいた。高校の進学先を決めるにあたっては「子ども本人の意向を重視する」とすべての方が回答している。高校を選ぶ際の基準となる事柄としては、「授業内容・生徒の活動」に関心が高かった。公営塾について、「知っている」と答えた割合は36%にとどまり、今後さらに周知していく必要がある。白馬中学校についてはこれから実施予定。
- 小谷中学校と職員交流を行い、本校の職員が小谷中学校の授業を見学に行った。英語の授業に大変刺激を受けたと聞いている。白馬中学校とも交流を行い、今後は小学校も含めて小中高の連携を進めていきたい。
- 学校教育活動の報告は資料のとおりである。今後の予定は、高校生ホテルを12月に行う。断熱改修プロジェクトは今年19日（土）、20日（日）の予定。国際交流では、白馬インターナショナルスクールの草本様からの紹介で、タイの中学生との交流を12月21日（水）に予定している。ブリティッシュスクールオブ東京との交流を復活させる予定。
- 以前の協議会で、地域の意向調査を行いたいという意見が出されていた。小谷中学校で保護者説明会を実施するにあたり、急遽学校の方でアンケートを作成したが、アンケートの内容については運営協議会としてあらためてご検討をお願いしたい。
- 小谷中学校説明会の様子は同行していただいた柴田委員から一言報告をお願いしたい。

<柴田委員>

- 私からは公営塾について説明させていただいた。アンケートで公営塾をご存じの方が8人と少ないながらもいたことに安堵している。今後の周知の仕方をさらに考えたい。特進クラスを設け一般入試もサポートする体制があることを強調した。

<白戸会長>

- 学校からの報告に対して、質問、意見はあるか。（質問、意見なし）
- 次に白馬山麓事務組合から報告をお願いします。

<松澤事務局長>

- 10月31日までに開催した都市部での説明会には、13組24名の参加があった。
- 地域みらい留学を通じて実施した対面による説明会では、18組31名の参加があった。
- 本年度、昨年度と2年間、関西方面からの生徒の入学が無かったため、修学旅行等の学習活動で白馬、小谷地域を訪れた関西方面の中学校72校へパンフレットを送付し、白馬高校の教育活動と関西地区で開催される個別説明会の周知を行った。
- 白馬高校に進学実績のある関西地区17校の中学校を訪問し、生徒の状況や学校の取り組みを説明した。中には後輩をぜひ送りたいという熱心な先生もおられた。
- PRビデオの制作を進めている。依頼先は、村の観光局等多くのPR動画を手掛けている株式会社GOAT。アウトドアスポーツ・環境・観光・国際交流などについて、5分程度の本編を1本。本編の短縮版で1分程度のものを数本、15秒程度のものを10本制作する予定。15秒の動画はTikTokを活用し、白馬高校の良いところ特集、「何とんでも白馬フィールド」「学校のイベントはこんな感じ」「こんな仲間がいる」「雪がすごい」「すぐに山に着ける」といった白馬高校の「あるある」について生徒目線で生徒のアイデアを取り入れながら制作していく。
- 公営塾については、「地域クラス」という体験活動に特化したものを設置する。スキーやスノーボード、SUPなど生徒たちにはどんどんフィールドに出て活動して欲しい。
- 先進地への視察で、北海道の福島町と余市町に行った。福島町では、青少年交流センターを建設中で、個室24部屋のほかに、地域の方に開放したゲストルーム4部屋を設けている。ミニ講演会などができるスペースもある。北海道の小規模校向けの遠隔授業配信センター（T-base）という施設もある。町でハイスペックのパソコンを貸出し、卒業時には贈呈している。余市高校では寮下宿について伺った。北海道から89名、県外から91名、計180名が在籍しているキリスト教系の私立学校。16の寮下宿がある。寮下宿会を結成し、月7万円前後で弁当も寮下宿で持たせている。運営は管理人さんが行っており、自己責任を入寮時に確認したうえで、合わない場合は寮下宿を途中で移るこ

とも可能としている。デメリットとしては、行政からの援助がないため保護者の負担が大きいこと、寮下宿のオーナーが高齢で後継者に不安があること、また、10人以上の入居がないと事業が難しいということであった。

<白戸会長>

○事務組合からの報告に対して、質問、意見はあるか。(質問、意見なし)

## ②協議事項

<白戸会長>

○続いて、学校運営協議会としての今後の取り組みについて協議に移る。事前に送付された資料に、今後1年間の取り組みを提案いただくためのワークシートがあったが、先ほどの学校と事務組合からの報告を踏まえつつ、生徒募集と教育活動の充実の2点についてそれぞれのお考えをお聞かせいただきたい。まずは生徒募集についてご意見をいただきたい。

<武田委員>

○子どもが入りたい、親が入りたい学校にするためにも、多くの保護者の方が説明会に参加していただけることは良いこと。今実施したからすぐに結果が現れるというものではないが、工夫しながらこれからも協力していきたい。

<白戸会長>

○これまでの県外募集の説明会の開催場所、回数、告知方法、説明会内容について、意見があれば加えてお話しいただきたい。

<相沢委員>

○オンラインによる学校見学ができないか。また、体が不自由な方や学校に通えない方たちに向けてオンラインで授業ができないか。

○地元の保護者や近くにいる子どもたちとの会話の中で白馬高校の魅力について声掛けをおこない、生徒募集について同窓会としてできることからやっていきたい。

<太田委員>

○両中学校と高校の交流を通じて、先輩と一緒に学びたいという思いが芽生え、両中学校の生徒の半数近くが入学してくれることが理想。地元の人に対して、高校生が近所でしっかりと挨拶や会話をするなど、高校生らしく過ごしていけばよい印象になる。白馬高校に対して、目標や希望を持てるように、進路先を決めかねている中学生に勧められるプランを考えたい。

○一時期、全国的に県外からたくさん入学していたので、その卒業生や活躍している先輩に協力していただきPRを行い、入学した生徒たちがそのような先輩と触れ合う機会が作れば楽しい学校になるのではないか。

<柴田委員>

○生徒募集が160人という数合わせに集中し、地元の子どもたちに目が向いていなかった結果が今の状態ではないかと感じる。県外から来る生徒たちは多様であるので、以前から提言している通りある程度規制をかけるなど、何らかの方策を講じる必要がある。

○これまで多くの学校を視察した中で、視察先はいずれも中高連携を行っており、白馬との違いは村の教育委員会の関わり方だと感じた。今後、県と村教育委員会が主導して中高連携を進めてほしい。理想は、地元から半数強が集まり、そのほかに県内他地区、県外からの生徒という割合がよい。

<草本委員>

○中学校保護者アンケートが参考になる。白馬高校に期待する指導として1番多いのが「基礎学力および一般教養・社会的常識の定着」で、続いて「個々の生徒の特性に応じたきめ細かな学習・進路指導&生活支援」「思考力・判断力・表現力の育成に重点を置いた学習指導・生活指導」「対人コミュニケーション・対話力の育成」とあり、その次に「一般入試による大学進学を可能にする高い学力の育成」とある。白馬高校では今まさにこのような形で実施していると思う。

○北海道の視察でオンラインの話があったが、白馬高校は学力の幅が広く、先生方も苦勞されていると聞くので、オンラインを活用して一人一人に対応できる形で授業の負担軽減ができるとよい。

○PR動画作製について、GOATさんの映像は美しく保護者に訴える点で向いているし、15秒のTikTokのアイデアは中学生に対してよいと思う。それが「バズる」と、県外県内を問わず地元の子どもにも刺さると思う。はじめは業者や大人が作るとしても、定着した後は、生徒の中にSNS委員会を作り、定期的に発信できないか。彼らが学校を存続させるために誇りを持って実施できればよいと思う。国際交流もこれから復活できると思うが、ブリティッシュスクールとの交流なども含め、「こんな取り組みを行っている」と発信できれば、地元にも効果がある。

#### <笹川委員>

- 白馬中学校の説明会に出席するにあたり、何人かの保護者に話を聞いたところ、「白馬高校は2年後なくなるのではないか」「なくなる学校に子どもを入れるのは可哀そう」との声があった。一方で、「白馬高校がいい」という声もある。白馬高校がどういう状況にあるのかを丁寧に説明していく時期だと思う。また、「白馬高校と言えばスキー」との声もあり、今週白馬高校に関わるスキー関係者の集まりを開いて、スキーが得意な中学生が他校へ行っている現状などについて話し合う予定。
- 高校生ホテルに招待枠で中学生にも参加してもらってはどうか。先輩たちが授業でどういうことを学んでいるかを実際に体験してもらおう。こうした連携を今後考えてもらいたい。

#### <出口委員>

- すぐにできることとして、12月下旬に中学校では懇談会があり、1月には第5回の総合テストの結果も出るので、進路変更を考える生徒が出るのが予想されるため、進路相談会を個別に設けたらどうか。
- 全中のスキー大会が野沢温泉村であり、全国から選手が来るので、白馬高校のパンフレットを旅館を通して配布するのはどうか。
- 昨日 YouTube で白馬高校を検索した。スキー部のトレーニング風景が3件、文化祭が1件、ほか3件。そのうち1件は2015年の「魅力化プロジェクト」で、再生回数が2000回程度で私立のホームページ並み。1件はヤフージャパンの「誇りある名門校を救いたい、白馬高校魅力化プロジェクト」であり、今後も継続して掲載すべきか検討を要する。もう1件は、NBS「未来への飛躍」であり、授業や寮、高校生ホテル、進路指導の様子がよくわかるが、本編は約20分の時間を要し、最後まで見る人が少ないことが予想される。学校紹介をするのであれば、短く、かつ分かりやすいものがよい。これ以外にも、イオンのエコワングランプリの審査員のコメントの動画もあった。白馬高校関係で10万回以上再生されているものは、文化祭で、高校生が歌ってダンスをしている動画であった。全部視聴したが、全国募集をかけている学校にしてはアピール度が低く感じた。一方で、2020年に全国1位の1万人の生徒数をかかえる通信制私立高校は、概要がよくわかる YouTube が掲載されており、5万回再生されている。その中にはユーチューバーの有名な人のQ&A動画があり、生徒自身が学校を紹介する動画が3万回再生されていた。最も再生回数が多かったのは、業界で著名な方が当該校の批判を含めた紹介を行っている動画であった。いかにインフルエンサーに刺さり、フォローしてもらえるか。内容を検討し掲載していかなければならない。
- 県外ばかりに目を向けていると、経済的援助をしている白馬、小谷の住民からは、もっと自分の子ども大事にして欲しいという思いが強くなる。例えば広域通学バスの援助をおこない、小谷村営バスが白馬高校まで運行し、地元を大事にすれば地元からの評価も上がるのではないか。

#### <浅原委員>

- 白馬高校への志願者は、9月段階で15名、小谷と合わせて18名ほどいる。白馬高校へ行かない理由とすると、学力や大学進学との兼ね合いで決めていくことが多い。どのようなアピールをしても、この観点からは一般的には選択しない。人数を増やすには、まず学力の問題、次に高校生ホテルだけではなく、もっと本質的な教育内容としての魅力を出していかないといけない。国際観光科そのものの在り方をどうするのか、魅力の組み換えをしていくことなどが本質的に必要ではないか。
- 軽井沢町の学校のことで新聞記事を見て衝撃を受けた。私立と公立の学校を教育委員会がつなぎながら、町としての教育作りを行っていた。同様に考えると、白馬、小谷の小中学校と白馬インターナショナルスクールと白馬高校が、何か立体的な特色を持ちながら教育をすすめるのであれば、他校へ行くよりも魅力的となる。地域としての魅力を教育内容の中で考えていかないと本質的とはなり得ない。学力や教育内容の本質的な部分を考えていくことが大切だと思う。

#### <中村委員>

- 二人の中学校の校長先生が本質をとらえていると思う。県外生向けと地元生向けとあるが、今訴えられるのは動画だと思う。県外も必要だが、足元に目を向け、地元で訴えることが大事。例えば、スキー部をはじめとした部活動など、高校生が中学生と一体となって活動していくことが必要ではないか。
- 同窓会のみなさんにもう少し頑張ってもらいたいと思う。同窓生の中には、70周年記念行事の案内が来ていなかった方がいると聞いている。白馬高校には素晴らしい卒業生がいるので、自信をもって同窓会のみなさんが子どもたちを導く活動をして欲しい。
- YouTube や SNS による発信などは、今の子どもたちにマッチしているので進めて欲しい。教育活動充実に関して、公営塾で特進コースが始まっているので、その情報発信をしっかりと行って欲しい。

<丸山委員>

○高校再編基準に該当するかもしれないという危機感を煽りすぎてもいけないが、行政的には魅力をアピールするにもある程度の危機感も必要でそのバランスが難しい。みなさんの意見の中に行政がしっかりしなければならぬと感じた点があるのでしっかり検討していきたい。

○銀座 NAGANO の説明会に参加したが、校長自らが説明し、白馬高校の現役生徒たちが学校紹介していたビデオがよく伝わった。寮紹介もビデオを作成するなど県外生にしっかり発信するよう関係機関に話している。白馬村が配信しているイベント紹介は、フォロワー数が多いので白馬高校学校説明会の案内を流すよう依頼し対応していきたい。オンライン説明会の回数を増やすこともよいのではないかと。ダンスやサッカーなどの部活動についても大きな魅力なので活かしていけたらよい。

<白戸会長>

○生徒募集のほか、カリキュラムなど、他にあれば発言願いたい。

<出口委員>

○先日、白馬バレーSDGs のイベントに行ったが、県外の観光客や外国人の方も多くて会場が一杯だった。そこでは様々な取り組みに関するプレゼンテーションがあったが、白馬高校は断熱プロジェクトなど環境改善に向けた取り組みを行っているので大事な発表の場として参加してもらいたかった。

○高校生ホテルは、単に接客やサービスを体験するだけでなく、ホスピタリティを身につけさせることで付加価値が出る。これから求められる学力はそういうところではないか。10年後は現在の約半数の職業がAI に取って代わられるという不安が若者にあるため、学力観を変えることに白馬高校が挑戦する可能性もあるのではないかと。

○先日、小谷中の総合発表会があり、1日目は小谷学で地域の調べたことをそれぞれの学年が発表している。発表の対象が保護者や先生に限られていたため、来年は白馬高校生に来てもらい発表に対するコメントをお願いしたい。逆に白馬フォーラムに小谷中学校の1、2年生が見に行けば、相手意識のあるプレゼンテーションとなり、互いにとってプラスの関係になり、白馬高校をより身近に感じられるのではないかと。

<白戸会長>

○本来であれば議長としてまとめの発言をすべきだが、高校生の学習発表の後に改めて行う。

(5) 生徒発表

「JR 大糸線の現状と利活用について」

3年普通科学校設定科目「時事問題」の選択者7名による発表（担当教諭 堀川元彰）

小谷村役場観光地域振興課の担当者から大糸線の現状について話しを伺い、小谷村と大糸線活性化協議会の協力で10月上旬に小谷村と糸魚川市のフィールドワークを実施。

実施内容

- ① 地域住民・関係団体から話を聞く。
- ② 南小谷駅から糸魚川駅までの景観、駅の様子を調べる。
- ③ 現状を踏まえて活性化案を考える。

生徒発表 【略】

<井出教頭>

○質問があればお出してください。

<草本委員>

○現在、糸魚川高校と連携して一緒に行っているのか。

<堀川教諭>

○今回の件は連携していないが、12月の白馬フォーラムで交流する予定。

<草本委員>

○JR 職員や大人たちが考えるだけでなく、高校生が提案するものはメディアの注目を集め力になる。大糸線を利用してシーフードを食べに行くツアーの企画や、2次交通として駅から飲食店に移動する手段を考えるなど、今後の可能性がある。

<白戸会長>

○いい課題を見つけて、いいアプローチをしている。地元の課題に地元の高校生が取り組み、それに対して周囲が協力してくれるのは、白馬高校が地域から必要とされているからだ。

○今回の活動を通じて、今後新たにしていきたいという考えがあるか。

<生徒A>

○新たに何かやりたいというものは今具体的にはないが、将来的に地元に戻ってきたとき、こうして地域活性という課題に取り組み、自分が考えたということが自分の力になると思う。

<白戸会長>

○うちの大学にぜひ来てもらいたいですね。

<中村委員>

○白馬高校の生徒が北小谷から JR に乗る姿を NHK の映像で見た。大糸線の活性化案をまとめていただきありがたい。今後具体的な行動をいかに起こすかが問われている。

○質問をしたい。この中で小谷から来ているのは1人だけか。また、以前は中学校に JR を利用して登校していたことを知っているか。

<生徒B>

○1人です。私は中学校のときはバスで登校していた。お父さん、お母さんたちが中学校へ電車で通っていたという話は聞いていない。

<中村委員>

○地区によっては昔 JR を使って中学校へ通っていた。また今後どうやって大糸線の利用状況を復活させるか引き続き考えて欲しい。

<井出教頭>

○本日いただいたご意見を今後の授業に活かしていきたい。

## (6) 学校運営協議会としての今後の取り組みについて

<白戸会長>

○本日はかなり本質的な話もできた。具体的にこの運営協議会でできることを考えたいが、本日出された意見を整理しつつ、自分の意見を含めてまとめたい。

○学校であるので、どのような人材を育てていくのかを明確に示すことが外部への魅力につながる。自分の大学では学ぶ動機づけを一番大事にした。現場で課題や問題を見てその中から自分はこうしたいと考える、そのためにはこのような能力を身につけたいという、帰納的学習手法が大事。

○早稲田大学、慶応大学も今は入学生の半数が推薦入試によるもの。少子化に伴って、一般入試は減少し、ますます青田刈りとも言える入試形態になっていくことが予想される。長野県において、観光は遊びと捉えられて仕事という観点が欠落してしまいがちである。「国際観光」という言葉の定義づけをもう一度行い、「住んでよし、訪れてよし」という地域づくりが本来の意味であることをアピールする必要がある。

○行政や両村の人たちが白馬高校をどのように考えるのが大事になってくる。大学を含めて、地元生徒が集まらない学校は成り立たない傾向にある。地元の役所を含めた地域とどうつながるかが今後の課題。生徒募集については高校生目線や保護者目線が最も重要であるが、祖父母の意見なども重要であり様々な視点から考えたい。県外募集が地元にとってどのようによい結果につなげるかが必要。

○他にもあったが、少し整理させていただいて、今後本協議会に「ワーキンググループ」を作るなど、より具体的に検討して行く形にしたい。

○このほか、発言のある方はいるか。

<山岸指導主事>

○笹川委員の言われた「2年後に白馬高校が無くなる」という噂が流れているということは県としても放って置けない。白馬、小谷両中学校の校長先生に各学校でそのようなことはないことを周知していただくとともに、県教育委員会として11月14日の中高の校長代表者会で注意したいと思う。

<関校長>

○ご審議、ご検討いただきありがとうございました。高校再編3次案には、10区の木曾地域に「当面の間現行の高校配置を維持する」という文言があるが、当12区にはこの文言は記載されていない。不安感が先行すると募集活動も難しくなる。ぜひ安心感を与えるメッセージを県として発信してほしい。学校として特色づくりと教育の充実に努め、募集活動も積極的に行っており、安心して学んでいただけるからぜひ白馬高校へ入学してほしいと話している。白馬中学校においても同様に訴えてきたい。白馬、小谷地域を担う高校として、これからも存続できるように皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っている。引き続きご協力をお願いしたい。

○新しい魅力づくりが必要だという点は学校としても思っている。高校生ホテルばかりが本校の特色ではなく、すべての教科・科目で学習活動には探究学習を取り入れており、授業に加えて、課外活

動における探究活動が大学進学にしっかりと結びついている。「どこで学ぶか」より、「何を学ぶか」であり、実社会で役立つ力をどのように身につけて社会に出るかが問われる。本校で行っている教育活動によって生徒は成長している。先日のアンケートで「学年を追うごとに生徒の成長が分かりました」という保護者のコメントはうれしかった。先ほど紹介した「自分たちの学校を自分たちの手で作りたい」という生徒ができてきたこと、生徒たちがしっかりと育っているということをしつかりアピールしたい。今後ともよろしくお願いします。

<白戸会長>

○本日の協議はこれで終了とする。

(7) 閉会

<井出教頭>

○事務局からの連絡として、次回第4回運営協議会は2月13日(月)を予定している。

以上